NO.737 2023　　聖イグナチオ教会報

7月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス　＝　「より、もっと、さらに」

教会テーマ　イエスにつながり　互いを受け入れ　御父の家へ　ともに歩もう

主聖堂のわが聖母マリア

助任司祭　サトルニノ・オチョア

2000年だったと思います。

信徒会館の3階から聖母のご像がかなり大きなトラックに乗せられて、教会の敷地に入ってくるのをはっきりと、見ることができました。

ちょうど入り口の大きなヒマラヤ杉の下で降ろし、重たかったので台車に乗せ、10人が力を合わせて主聖堂まで運びました。

真っ白な石の聖母であったので、主聖堂のやや暗いところに置かれましたが、いつも光り輝いていました。

聖イグナチオ教会のイエズスさまのご像は聖堂の真ん中の高いところから我々を穏やかに迎えてくださっています。そして腕を大きく広げて〝ようこそ教会へ〟とおっしゃってくださっているようです。

しかし、聖母のご像は違います。

もう一人の信者と間違えるくらい低いところから、手を合わせて祈っているのです。冠もなければ、履物さえもない。そして優しい秘密のようなほほえみで、〝よく来てくれたね。もういいんだよ。いいんだよ。〟とささやくのです。

あれからおよそ23年が経ちました。

聖母の真っ白な手も足も黒くなりました。教会を訪れる人は皆、聖母の手と足に触りたくなり、また聖母の内緒のほほえみに安心させられるようです。

アヴェ、マリア、恵みに満ちた方、
主はあなたとともにおられます。
あなたは女のうちで祝福され、
ご胎内の御子イエスも祝福されています。
神の母聖マリア、
わたしたち罪びとのために、
今も、死を迎える時も、お祈りください。
アーメン。

私は主聖堂の聖母マリア〝わがお母さん〟が大好きです。

ロヨラの聖イグナチオがこういう風に聖母に向かって祈ったそうです。

〝どうぞあなたの子にあわせてください〟と。

㊟聖イグナチオ教会の主聖堂のイエス像とマリア像は、同じ作者中野滋氏によってつくられたものです。

教会報 MAGIS 7月号

† WYDリスボン大会
　～若手信徒 12 名派遣へ～　P2～3
† ニコラス前総長帰天 3周年記念ミサ　P4
† Family of St.Ignatius
　～ベトナム共同体から～　P4
† 教会活動グループ便り ⑤　P5
† 連載　光をつないで ⑦　P6

【7月の共同祈願】

教会の守護聖人、

ロヨラの聖イグナチオに倣います。

私たちの心の様々な動きの中から、

良い霊の促しに従えますように。

【ミッション2030 −前文−】

私たち聖イグナチオ教会は、
祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。
現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、
環境破壊など、未来に希望を見出しにくい
反福音的なものに脅かされています。
それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、
いつくしみの扉を開いていきます。
私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、
貧しい人や弱い人の声を聴き、
皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、老いも若きも)、
福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

2023 ワールドユースデー リスボン大会に信徒12名を派遣

テーマ「マリアは出かけて、急いで山里に向かった」(ルカ1:39)

8月1日(火)～6日(日)にポルトガル・リスボンで開催されるワールドユースデー(以下、WYD)に、当教会より青年信徒12名が派遣されることになりました。

WYDは国連が1985年を「国際青年年」と定めたことを受け、前年1984年「あがないの特別聖年」の閉会ミサで、教皇ヨハネ・パウロ2世が青年たちにローマに集うようにと呼びかけたことに始まります。その後、毎年「受難の主日(枝の主日)」(2020年より「王であるキリストの祭日」に変更)が「世界青年の日」と定められ、2～3年ごとに世界各地でWYDの世界大会が開催されるようになりました。第1回目は1985年イタリア・ローマにて開催され、今年で16回目となります。当教会からの派遣は2016年より始まり、帰国後は派遣者による報告会が開かれ、様々な体験と恵みを分かち合っています。

一つの信仰を持つ世界中の青年たちが集まり、神さまを中心とした輪でつながることで、自身の信仰はさらに確固たるものとなります。WYDは回心から始まり、キリストの受難と復活の神秘を祝う巡礼の旅でもあります。将来を担う若者に信頼と希望をおき、派遣団に大きなお恵みがあるよう祈りを捧げたいと思います。引き続き、献金を募集中です。

▶5月28日(日)16時半から芝生で行われたリビングロザリー(テーマはWYD)。高祖主任司祭から祝福を受けて

●派遣団員の紹介●(順不同)

オーゾー・ダーリングトン・オビナ

神は巡礼を通して力強く働きかけてくれると信じています。これはアフリカの多くのカトリック組織にも大きな後押しとなるでしょう。WYDから戻った後も、私の経験を分かち合い、常に福音の宣教に貢献したいと願っています。神が私を神の意志を行うための器として使い続けてくださることを祈ります。

岩崎華子

日頃、私は日曜学校のリーダーとして活動しており、将来は教員になることを志しています。今回の一連の経験や学びを、教会に関わる存在としての自分自身の信仰の糧にすること、教会のコミュニティーにおいて発揮するよう努めることだけでなく、次の世代につなげるという形でも生かすことを目指したいです。また、新たな出会いを通して自分の信仰を相対化し、深められるよう努めていきたいと思います。

ファレリ・アウレリア

インドネシアからの留学生で、大学ではUI・UXデザインを学んでいます。教会では英語版教会報のレイアウトを担当したり、聖歌隊で歌ったり、事務の仕事を手伝っています。

今回のWYDで、多国籍のカトリック信者の若者とつながれることをとても楽しみにしています！ 帰国したらWYDで得た学びを生かし、教会でもより国際的な交流を増やせればいいなと思います。

疋田幸乃

小学生から高校生まで関わった侍者会から始まり、大学生からは3年前まで日曜学校リーダーを務め、今は子どもとともにささげるミサの楽隊として奉仕して

います。言語の壁を越えた交流ができるように、まずは得意な音楽からアプローチすることを考えています。

このチャンスを与えてくださった神さまと教会に感謝し、日本に帰ったときに自分にとっても、また後に続く若者にとっても実りのある報告ができるように頑張ります！

宇留野真人

いろいろな国の青年と交流し、私たちの文化や信仰を分かち合って、お互いに学び、信仰を深めたい。その経験を家族や友だち、教会の中だけでなく、日本のすべての若者たちに感じた事や学んだ事を広げたいと思っています。

そして、経験したことと信仰のすばらしさをより多くの人に伝えたいと思っています。将来、日本でWYDやAYD（アジアンユースデー）が開催することがあれば、ボランティアをしたり、ホストファミリーになりたいです。

桑田早綺

幼少の頃から多くの時間を過ごしてきた聖イグナチオ教会から派遣していただけることをうれしく思います。私は人が日々過ごすために、それぞれに大切にしている〝祈り〟と、それらが形作る文化や芸術に強い関心を抱いてきました。

今回のWYDを通じて同世代の若者と関わる中で、私自身の信仰を深めることはもちろん、特に、世界中で過ごす〝同じ信仰の元にいる人々〟がどのような世界を見て、どのように考えながら過ごしているのかを感じられたらと願っています。

山澤綾乃

WYDに参加することは、私の今までの人生、そしてこれからの人生にとても大きな影響を与えるものになると思います。私にとって初めての大きな大会、そして海外への旅、新しいことでいっぱいです。私の中にある信仰はまだ小さくて、これから学ぶことがたくさんあります。リスボンへの巡礼が、自分の中の信仰と向き合うよい機会となる事を願っています。

山澤遥乃

この数年、コロナ禍によって教会に通う機会が少なくなってしまい、自身の信仰心について悩むことが多くなりました。WYDで様々な国の同じ信仰を持った方々と交流することで、少しでもその答えに通じる経験ができたらと思っています。きっと思いもよらない多くの経験があるでしょう。その一つひとつを神さまからのお恵みとして受け入れ、今後の信仰生活で生かしていきたいです。

紀藤香耶

中学生の時からWYDに憧れがあり、今回行くことができてとてもうれしいです。自分の中の信仰を成長させていくこと、お恵みと気付きを信仰共同体の皆さんに届けることを目標にして頑張りたいと思います！

リスボンは日本にキリスト教を伝えた聖フランシスコ・ザビエルが宣教へと旅立った土地であり、日本人に非常に縁深い場所だと思います。どのような思いがわき上がるかとても楽しみです。

グエン・チ・リン

まず、WYDの体験を通じて、自分の魂の豊かさを見つけたいと思います。異なる文化背景を持つ人々とつながりを持ち、コミュニケーションすることで、自分自身を向上させたいです。また、一緒に参加するメンバーをできる限り助け、リーダーシップが向上することも望んでいます。WYDへの参加が自分をよりよい人間に成長させ、よりよいコミュニティーを築くために役立つと信じています。

村山和香

幼少の頃から多くの時間をこの教会で過ごしてきました。私は今回のWYDリスボン大会を通じて、キリスト教を国教としている国の文化を体験したい。キリスト教は日本では少数派であるため、ポルトガルでは宗教が現地でどのように根付いているのかについて、街の様子や人々の心を通じて直接感じたいのだ。ここから、少なからず残る日本の宗教への偏見をどうしたらなくせるかも考えたいと思う。

岡愛子

はじめまして、教会学校でリーダーをしている大学3年生の岡愛子です。

幼い頃から教会学校に通っており、教会は大切な居場所でした。しかし、最近は教会学校に来る子どもたちが減っています。WYDに参加することで、広い視野を持つことができると思います。それを生かして、教会学校に少しでも恩返しをし、子どもたちが「また遊びに来たい！」と思えるような環境づくりに尽力したいです。

イエズス会前総長アドルフォ・ニコラス神父

帰天3周年記念ミサ

2023年5月20日（土）16時から主聖堂にて行われました（YouTubeで動画配信中）。

冒頭、3年前ローマで執り行われた追悼ミサでのアルトゥーロ・ソーサ総長によるメッセージ動画が英語で流されました。

〈ミサ〉

聖歌『主よみもとに』を歌いつつ開始され、イエズス会日本管区長（当時）のレンゾ・デ・ルカ神父、ダニエル・パトリック・フアン神父、梶山義夫神父の共同司式で行われました。

初めにレンゾ神父が英語で挨拶され、続いて日本語で「主キリストは私たちの救いのために人となられ、十字架上で亡くなられた後、復活して栄光をお受けになりました。生涯キリストとともに生き、神のみもとに3年前に召されたアドルフォ・ニコラス神父もまた、キリストとともに復活の栄光にあずかることを私たちは信じています。この復活の信仰を新たにして祈りましょう」と語られました。

ミサ説教は福音朗読（ルカ17：7～10）を受け、フアン神父が英語で話されました。

『従順なしもべのたとえ』と呼ばれるこの福音は、ニコラス神父（通称：ニコ）が人生を懸けて証しした奉仕の3つの側面を思い起こさせます。それは、①完全な自己贈与である奉仕 ②謙虚で自由な奉仕 ③喜びそのものである奉仕です。

忠実で自由な主のしもべニコは、今、永遠の命を受け、愛する主とともに尽きることのない喜びを享受していると信じています。彼のようにより寛大、謙虚、自由、そして喜びあふれる奉仕者となれるように、皆が鼓舞されますように」と締めくくられました。

教会行事

教会大清掃　4年ぶりに

6月3日（土）、教会大清掃を4年ぶりに開催しました。

関東地方に大雨警報が発令中にも拘わらず、77名が参加、聖堂・クリプタ・ホール・信徒会館など、普段は手の回らない所まできれいに拭き上げられました。最後に髙祖神父様よりお話と祝福をいただいて、心も清められて終了しました。

私たちの祈りと集いの場、「我が家」と呼ぶところを年に一度心を込めて磨く日として、この日を大切に思われている方も多く、参加の皆さまに、また諸事情で参加を断念された皆さまにも、お心に留めていただいたことに感謝申しあげます。

（クリーンアップグループ　齋藤順子）

Family of St.Ignatius

～ベトナム共同体から～

ベトナム人共同体の新しい動き

まず、アン・ベトセンターのことですが、2022年の一年間スタッフを探していましたが、なかなか見つからなかったです。幸い、5月31日から1人のベトナム人の女性に働いて頂くことになりました。今のところ、彼女は水曜日と金曜日の15時から19時まで、そして、週末の10時から18時まで、アン・ベトセンターにいるので、もし、御用があるなら、どうぞ、お訪ねください。

そして、日本生まれ日本育ちのベトナム人の子どもたちのために、5月からカテキズム勉強会を始めました（写真）。最初の日、7人で集まってくれましたが、最近は、14人で2つのクラスに分けて、第1と第3の日曜日、一緒に信仰教育を受けています。信仰について、日本語で十分説明できない親たちからの要求を受けて、このようなクラスを開きました。そして、少しでもベトナム語を忘れないこともこのクラスの第2の目的です。

皆さん、これからもどうぞ、宜しくお願いいたします。

（グエン・タン・ニャー神父）

活動グループ便り ⑤

各活動グループから、現在の活動状況の報告です

活け花グループ

お花を祈りとして活ける…その思いを次世代へ

現在、16名のメンバーで活動しています。

90代の方から20代の方まで、幅広い世代で交流しながら祭壇にお花をお祈りとして活けさせていただいています。復活祭、聖霊降臨の祭日、堅信式、聖イグナチオ・デ・ロヨラの記念日、聖母被昇天の祭日、合同追悼ミサのお花等々。また、日本の行事も大切に考え、こどもの日、母の日、敬老の日、七五三、お正月など、季節にふさわしいものになるように努めています。

約3年半のコロナの影響で、お花の活動も制限がありました。でもそのおかげで、グループラインができ、ミサ配信、神父様からのお知らせ、教区のニュースなどを載せて共有しています。

マイナスはマイナスではない、お花の精神のひとつでもあります。

今までご尽力くださった先輩の方々の思いを受け継ぎ、どのように若い方々にバトンタッチしていくか。イエスさま、マリアさまの見守ってくださる中、伝統に縛られすぎず、新しい次の世代の感性を取り入れ、いろいろな世代がひとつとなって時代の変化とともに神の愛を深めています。

※活動グループの活動内容・スケジュール等は変更になることがあります。また講座に初めて参加される方は、講座担当者か教会事務室にご確認ください。

植栽グループ

季節の花々に神の愛を感じられるように…

植栽グループでは年2回、5月と10月にお花の植え替えを行います。今は、ジニアやペンタスなど夏の花々が教会に集う方々、訪れる方々を出迎えています。植物の緑や花壇の花々をご覧になり、万物をお造りになられる神さまの愛を感じ、そのお恵みの中で皆さまが憩われますようにと願いつつお世話しています。

献堂当時、駐車場にする案もあった中庭を、子どもたちが遊べるようにと芝生にし、その芝生の管理を父母会有志がお手伝いしたことが植栽グループの始まりです。その後、教会前の植栽地に花壇を作成、丸花壇も作られました。先輩方のお手入れでとても土が肥え、その時々に植えたクリスマスローズやバナナも年々株が増えています。

普段の活動は、月一回、除草や掃除、水やりなど植物の手入れのために集まり、夏の間は、お当番を決め水やりをします。

作業中に温かな言葉をかけてくださる方、我が家の庭と感じてさりげなくゴミを拾ったり、適宜雑草を抜いてくださる方々に感謝申しあげます。

柴田潔神父 入門講座

神さまとつながり 信仰と生活の一致を

洗礼を希望している方、洗礼から2年未満の方を対象にしています。私自身は大学生時代に聖イグナチオ教会の木曜会に参加して受洗し、その後、12年の住宅会社の営業マンを経てイエズス会に入会しました。成人洗礼の一人として、これまでの信仰の歩みを振り返りながら講座の準備をしています。

念頭に置いているのは、忙しく生活される方の信仰と生活の一致を目指すこと、生活の中に神さまとつながる時間を少しでも作ることです。

祈りについても学びます。アシジの聖フランシスコの「平和を求める祈り」、神さまの計画を受け入れたマリアさまの「お言葉通りこの身になりますように」の信仰告白。祈りと小さな奉仕が神さまとの絆を作ります。講座を通して、神さまが私たちに働きかけておられることを感じられたらと願っています。テキストとして『ここが知りたいキリスト教への25の質問』(百瀬文晃神父著)を使用します。申込み・予約は不要です。

日時:第2・第4水曜日
18時45分~20時
(8月はお休みです)

場所:信徒会館40ー

柴田神父の入門講座

連載　光をつないで ⑦

信仰の糸に結ばれて

「光をつないで」は、当教会の青年信徒が聞き手となり、信仰上の諸先輩からその人生と神との交わりについての話を聞くことで、神とともにこれからの人生を歩むためのヒントを得ることを目的とした連載です。7回目は、当教会信徒フランシスコさん（84歳）に伺いました。

※語り手の名前は洗礼名

――信仰に導かれた経緯を教えてください。

東京の小岩で生まれました。教会に通い始めたのは、疎開先の山形県から東京に帰ってきてしばらく経った頃です。ごく自然な流れでした。隣の家のご家族がキリスト教徒だったので、母に「あなたも連れていってもらいなさい」と勧められ、その家の子どもたちと一緒に近所の教会に通い始めたのです。20人ほどが入る洋風の一軒家の教会で、キャンディーをもらったり、歌を歌ったりして楽しみました。クリスマスには近くの家や病院を訪問しました。

▶長年、当教会で主任司祭をされたヘルマン・ホイヴェルス神父の著書『日本で四十年』ほか、忙しい現役時代にフランシスコさんを支えたもの

カトリック青年としての青春の日々

高校生になると学習塾に通い始め、教会から足が遠のいていきましたが、教会に対する懐かしさはずっと残り、大学に入るとすぐにキリスト教のサークルを探しました。その頃、仲良くなった友人がミッション校の出身で、「カトリック栄誦会（えいしょう）」に誘ってくれました。担当司祭はヘルムート・エルリンハーゲン神父様で、一学年に約20名もの会員がいました。

間もなく私は、神父様が四谷で担当されていた「かつらぎ会」にも通い始め、冬には受洗して聖イグナチオ教会のメンバーとなりました。神父様は当時、東京中の様々な大学のカトリックの会を担当されておりました。3カ月ごとに大学生や若い社会人の洗礼式があった時代でした。日々の勉強会や夏の鎌倉や瀬田での黙想会、大学のゼミやアルペンクラブの活動、安保闘争もあり、あっという間に学生生活は過ぎていきました。

結婚の不思議な巡り合わせ

大学卒業後は父の家業を継ぎました。高度経済成長期に入り、小さな工場で休みなく小型機器のケースを製造しました。友人の紹介で出会った女性に結婚を申し込み、「私はカトリックです」と伝えました。何か言われるのではないかと、とても緊張しましたが「わかりました」とだけ返されたので、拍子抜けしました。彼女は小さい頃から母親と教会に通っていたそうです。カトリックを知る人だと判明し、心の底から嬉しかったです。洗礼を受けてほしいとは一言も言いませんでしたが、妻は結婚の直前に受洗しました。

昔の聖イグナチオ教会の聖堂で結婚式を挙げました。妻の勤務先の大学の学生さんがたくさん来てくれて、賑やかだったことを覚えています。

その後は仕事に忙殺され、なかなか教会生活は送れませんでしたが、子どもたちは妻に連れられて教会学校に通いました。たまに日曜日に教会に行けば、大学時代の友人の誰かに必ず会えることが喜びでした。退職後、ようやく教会で奉仕ができるようになりました。細い糸でつながっていた私の信仰を、神さまは再び強く豊かなものにしてくださいました。

――大切にしている聖書箇所を教えてください。

「人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」（ヨハネ15：5）です。イエスさまにつながっているだけで豊かなのに、さらに実を結び、豊かさの上に豊かになる。それが聖書の一つの特徴、神さまらしい点だと思うのです。一生懸命やって豊かになるということは世の中たくさんあるけれども、最初から豊かなのだと。信仰というのは、一つはそういうことなのだと思うのです。

◇

食べ物が乏しかった幼少期のこと、父が倒れ、就職を諦めて家業を継いだ青年期の思い出をぽつり、ぽつりと語られたフランシスコさん。インタビュー後、「あんまり苦労していないんですよ」と恥ずかしげに微笑まれた。

信仰を持って生きることは、新しい目で人生を見つめるようになることなのかもしれない。すべての不足を満たしてなお余りあるイエスの救いの事実に、彼の人生は貫かれていた。

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

（６月１日開催）

ミッション2030小委員会に対して、「社会的な動向や、豊かな国際性を踏まえた、2030年における聖イグナチオ教会の共同体のあり方」の検討を諮問します。

また、ミッション2030小委員会からは、前回の諮問に対して、連絡会機能の強化・充実を中心とした以下の答申を受けており、その具現化を進めていきます。

(1)　既存連絡会の機能強化

①　参加グループの見直し：各連絡会の運営を適正なものとするため、参加する活動グループの再確認を行うこと。

②　運営方法の見直し：連絡会の目的、構成員、責任者の選任、開催頻度、議事録作成・保管、担当評議員の役割、報告様式、報告先等を明確にすること。

③　各連絡会の論議（情報交換）の見直し：各グループが抱える課題や問題意識を連絡会の場で発信する機会を積極的に設け、現実問題の解決につなげること。

④　連絡会と活動グループ連絡会議の関係の見直し：各連絡会の議事の要点を毎回の「活動グループ連絡会議」において報告することを定例化すること。

⑤　連絡会責任者の他会議への参加の見直し：活連幹事会あるいは評議員連絡会などの場に、各連絡会の責任者の出席を可能とすること。

⑥　各種実行委員会との連携：各種実行委員会の設置に関しても、連絡会の機能を活用すること。

⑦　活動グループ基本シートの見直し

⑧　各連絡会の連携の輪の構築：各連絡会の責任者が定期的に集まり、評議員と共に論議できる機会を確保すること。

(2)　新設連絡会の設置の検討：インターナショナルグループ、若者グループなど、これまでの枠に入らないグループのために、新しい連絡会を作ること。

(3)　連絡会の機能強化以降の展望：連絡会を中心にした活動グループの態勢整備を進め、教区の規約に沿った新たな教会共同体の組織・制度を模索すること。

ミッション 2030　黙想と分かち合い

～祈り・つたえ・つながり・ともに歩む～

小さな私たちの分かち合い

第 5 回テーマ「アフターコロナの教会共同体
～髙祖神父様からのメッセージ～」

開催日時：　7 月16日（日）13:30～15:30
場　　所：　ヨセフホール
プログラム：　①髙祖敏明神父の講話（30分）
②祈りと黙想（30分）
③分かち合い（50分）

事前申込は不要です。ご自由にご参加ください。
詳細は教会ホームページ、ポスター・チラシ等でご確認ください。

●財務報告●

5 月14日（日）「世界広報の日」の献金 731,538円は雑誌、インターネット、テレビなどの広報媒体を用いた福音宣教に使われます。

●防災について●

聖イグナチオ教会がある千代田区の災害対応は「身の安全が確保できるならば現地点に留まる」「現地点が危険な場合、災害退避場所（上智大学グランド）へ移動」となっています。

聖イグナチオ教会では発災時、信徒の皆さんと共助しながら危機を乗り越えていきますが、現在「防災チーム」を編成し、防災マニュアルの策定、防災備蓄品の拡充に取り組んでいます。

またコロナ禍で中止していた避難訓練を 9 月に実施します。日頃から一人ひとりが防災意識を高め、「その時」に備えていきましょう。

●教会施設“修繕・保全報告”●

教会施設の2022年度修繕・保全の主な実施内容と本年度計画についてご報告いたします。

１．2022年度実施状況

1）音響設備

・マリア聖堂音響設備更新　　1,010万円

2）主聖堂パイプオルガンオーバーホール 704万円

マリア聖堂音響設備更新費増と主聖堂パイプオルガンオーバーホールを前倒し実施したことにより、その他の当初計画は延期しました。

この他、予備費枠で次に挙げる突発修繕と設備更新を行いました。

・ヨセフホール床面修繕
・マリア聖堂床材修繕
・集会室可動式仕切り壁点検修繕
・防煙防火ダンパー修繕
・主聖堂、香部屋、クリプタの各トイレ便器更新

全体予算2,650万円（税込）に対し、費用実額は2,111万円（税込）でした。

２．2023年度実施計画

1）消防設備

・自動火災報知設備更新

2）電気設備

・主聖堂バルコニー下照明、ヨセフホール照明、テレジアホール照明の LED 化

以上、2 件を計画しています。1）は設置から20年以上経過、不具合が発生しているので更新します。2）の施設各所の照明ＬＥＤ化は順次進めていますが、教皇様が掲げる地球環境保全に繋がると考えています。予算は2,750万円（税込）を計上しています。

施設委員会

7 月の典礼と行事

1　（土）　福者ペトロ岐部と 187 殉教者の記念日	**年次報告会　15:00　ヨセフホール**
2　（日）　年間第 13 主日	日曜サロン　11:00 ～ 12:30　ヨセフホール
5　（水）	『社会問題とカトリック教会の考え　2023 年度連続セミナー』 「シノドス」ともに歩む教会を目指して　18:30　ヨセフホール シノドス対話の実践①　耳を傾けること　―誰も排除されない― 「耳を傾けることが歓迎することになる」（大陸ステージ文書 3-1） 講師：ボネット・ビセンテ神父、小林由加氏他、シノだるチーム
7　（金）　初金曜日	
8　（土）	**2022 年度合同追悼ミサ（第 1 回）　10:00　主聖堂**
9　（日）　年間第 14 主日	子どもとともにささげるミサ　10:00 ミサがわかるセミナー　13:00　ヨセフホール　中止
12　（水）	水曜ティーサロン　12:00 ミサ後 傾聴ルーム　13:00 ～ 15:00　ヨセフホール 真和会講演会　18:45　ヨセフホール 「現代に見る文明対立」―ロシア、サウジアラビア、米国南部に見る「前近代」― 講師：上野景文氏
15　（土）	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座　15:00　ヨセフホール
16　（日）　年間第 15 主日	**幼児洗礼式（第 1 回）　10:00 ミサ** **ミッション 2030　小さな私たちの分かち合い　13:30　ヨセフホール**
19　（水）	クリプタに安置され 6 月に命日を迎える方々のためのミサ　12:00
22　（土）	**聖イグナチオの取り次ぎを願う 9 日間の祈り（7 月 30 日まで）**
23　（日）　**年間第 16 主日**	日曜サロン　11:00 ～ 12:30　ヨセフホール　**祖父母と高齢者のための世界祈願日** **教会活動連絡会議　13:00　ヨセフホール**
26　（水）	水曜ティーサロン　12:00 ミサ後 傾聴ルーム　13:00 ～ 15:00　ヨセフホール
30　（日）　年間第 17 主日	**ロヨラの聖イグナチオの記念ミサ**
31　（月）　ロヨラの聖イグナチオの記念日	

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：髙祖　敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田　潔

協力司祭：ヘネロソ・フローレス
ハビエル・ガラルダ
関根　悦雄
マヌエル・シルゴ

シスター：イベッテ・サンチェス
（セントロ・ロヨラ）
フロール・フロレーセ
（ジョン・デ・ブリット　イングリッシュセンター）

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間　Mass

【平日 Weekday】主聖堂　Main Chapel
7 :00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂　Main Chapel
土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00（English）/13:30（Español）/
15:00（Việt Nam）

【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Our Lady's　Chapel
12:30（Português）/16:00（Polski）

【月の第 2 第 4 日曜日　2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel　16:30（Indonesian）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp

ホームページ　フェイスブック

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

＊ 本文中の役職名等は、寄稿もしくは取材時のものです。